

(骨子仮訳)

Advancing the Global Exploration Strategy Human Exploration of the Moon

(シナリオ議論概要)

(概要)

・有人月探査に向けて共同でアイデア、計画を検討することが ISECG で合意され、関心のある機関が2008年後半から2009年初頭の間に月アーキテクチャ WS に参加し、議論を実施した。

・各機関における今後の意思決定マイルストーンに使用される可能性のある一つの規範構想 (*a reference lunar surface architecture*) をまとめることを目標として、月アーキテクチャの検討を2010年中期まで続けることが予定されている。

(A lunar Architecture WS)

・3回の月アーキテクチャ WS を通じ、WS 参加機関は、計画の共有、共通のテーマ・目的の模索、月探査アーキテクチャ検討調整の多極間プロセスの開始等実施した。また、以下の3つのシナリオを識別し、2010年中頃迄に引き続き開催される WS を通じて、分析が行われる予定。

(月探査シナリオ)

・WS の参加者は月探査シナリオの主な3つのタイプ(極有人拠点、短期滞在、中期滞在)のアーキテクチャについて議論した。それぞれのアーキテクチャは、最低限でも、搭乗員、カーゴ輸送、月及び地球間の通信及び船外活動支援を必要とする。

・極有人拠点シナリオ: 月面における180日間の宇宙飛行士の持続的滞在を可能にする。このシナリオでは、建設フェーズから完成にかけて、科学目的、普及啓発等に幅広く貢献できる。極有人拠点の主要な特色は、国際コミュニティによる国際火星探査ミッションの実現を視野に入れた、十分な信頼性のあるシステムや探査能力の開発を実現する点にある。

・月面短期滞在シナリオ: 月面の様々な地域への一ないし複数回の短期滞在ミッション。普及啓発活動に加えて幅広い科学目的を達成できる。このシナリオでは、NASA の Altair lander (或いは他の有人月着陸船) からクルーが外に出て生活し、7日間までの科学探査や月面活動を実施する。短期滞中に必要な資材の事前もあり得る。

・月面中期滞在シナリオ: 有人月着陸船に加えて、月面滞在活動に必要な資材を事

前展開し、短期滞在シナリオの月面滞在期間を延長・拡大する。短期滞在ミッションのクルー滞在時間を延長し、居住機能の追加提供や有人火星探査に向けた必要な技術・能力実証を行う。

以上